

海運の重要性を学校教育の場で  
～栗林商船の協力を得て事前授業および RORO 船の命名・進水式の見学会を開催～

当協会は、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を取り上げていただくよう、会員会社や関係団体と連携して教育関係者に対し、商船や海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、栗林商船のご協力を得て、11月25日（月）に内海造船 因島工場にて、尾道市内の小学校2校約80名を対象に RORO 船の命名・進水式の見学会を実施しました。なお、本見学会に先立ち、11月21日（木）に栗林商船 真治氏が事前授業を行い、船と私たちの生活との関わりや RORO 船は東京～北海道間など全国の港をつなぎ国内の物流を支えていること、生鮮食品や段ボールのもととなる古紙などを運んでいることを説明しました。



左：事前授業の様子  
右：講師へのウェルカムボード

進水式当日、児童は本船を見上げ、その大きさに驚きの表情を浮かべながら、船体に書かれた数字や記号、錨（いかり）、船首の形などについて次から次に質問し、命名・進水式が始まるのを待ちました。

本船は『神王丸（しんおうまる）』と名付けられた後に、進水準備の鐘が鳴り響き、船を繋ぎ留めているロープ（支綱）が銀の斧で切断されると、船首に取り付けられたシャンパンやくす玉が割れながら、全長約190m・総トン数約13,650トンの巨大な船体は、色とりどりのテープをはためかせ、風船が空を舞う中、参加者に見送られながらゆっくりと水面に滑り降りました。

参加した児童からは、「間近で見た船の迫力がすごかった」「ジャガイモやロールペーパーはこんな大きな船で運ばれていたんだ」などの感想が寄せられました。

当協会は引き続き会員会社と連携し、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。



左：船を見上げながら  
本船進水を待つ児童たち  
右：進水する神王丸を見守る  
児童たち